

2016年（平成28年） 10月14日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/29～10/5のNYMEX・WTIIは、9月28日のOPEC減産合意を受けて、47.83～49.83ドルの範囲に上昇した。

10月6日は、前日までのOPEC合意や米国官民の原油在庫減少報告など需給均衡の期待に加え、米国接近中の大型ハリケーン「マシュー」による供給障害発生の懸念から続騰し、4カ月振りに50ドル台を回復した。11月限の終値は前日比0.61ドル高の50.44ドルだった。

週末7日は、週末の利益確定や高値による利食い売りが先行し、ペーカークヒューズ社の米国稼働リグ数の4週連続増加の発表もあり、反落した。11月限は前日比0.63ドル安の49.81ドルで終了した。

週明け10日は、サウジのファリハ・エネルギー相が次回OPEC総会での減産合意に楽観的である旨、ロシアのプーチン大統領がOPECの協調行動に参加する用意がある旨、それぞれ発言したことが伝わり急反発、2015年7月15日(51.41ドル)以来1年3カ月振りの高値となった。11月限の終値は前日比1.54ドル高の51.35ドルとなった。

11日は、国際エネルギー機関(IEA)9月石油市場報告が来年前半まで供給過剰が続くとの予想を示したこと、ロシア石油最大手ロスネフチのセチン社長が前日のプーチン発言に反しロシアは協調減産や増産凍結を行うつもりはないと発言したこと等から、早期の供給過剰解消は困難との見方が強まり反落した。11月限の終値は0.56ドル安の50.79ドルだった。

12日は、イスタンブールで開催中の主要産油国による閣僚級協議が、減産を目指すOPECに対しロシアは増産凍結を主張した模様で、合意を月末に持ち越したと見られることか

ら、続落した。11月限は前日比0.61ドル安の50.18ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(11月渡し)は、前週45.30～48.60ドルの範囲で上昇した。6日は48.80ドル、7日は49.70ドル、11日は50.30ドル、12日は50.00ドルで推移した。

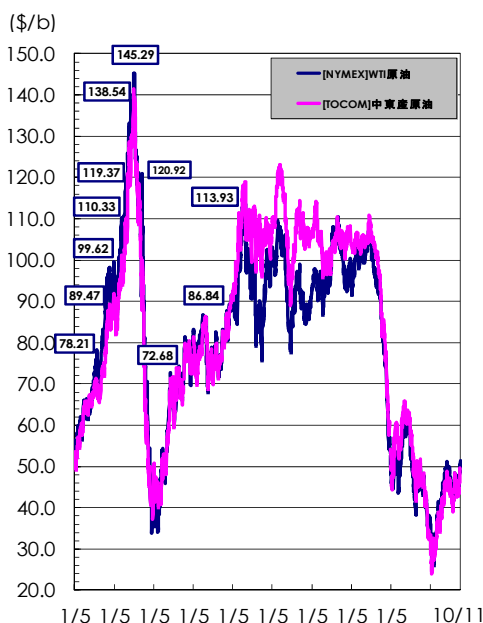
為替は、前週101.12～102.77円で円高安方向に推移した。6日は103.46円、7日は103.75円、11日は103.95円、12日は103.64円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、9月中旬の原油輸入平均CIF価格は、29,504円/klとなり、前旬を184円上回った。ドル建てでは45.69ドル/Bで前旬比0.28ドル高。為替レートは1ドル/102.66円。

主要元売会社の10月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0～3.5円値上がりした。OPEC合意を受けて原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安方向に動いたため、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、10月11日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの122.8円、軽油も0.1円値上がりの102.3円、灯油は横ばいの63.7円だった。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は5週振りの値上がり、灯油は3週振りに値下がり止まった。この週(10月第2週)の原油コストは値上がりで、元売の卸価格は殆どの会社が1.0～2.0円値上げした。

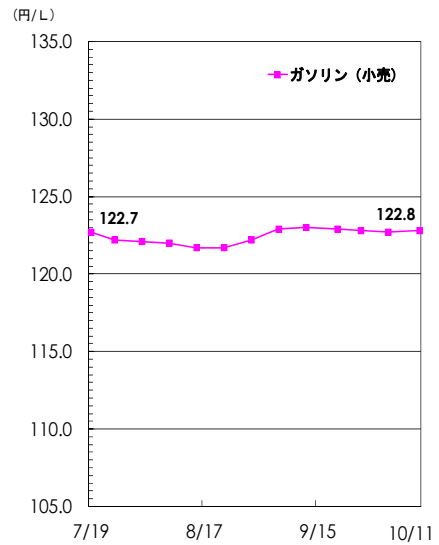
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/2 ~ 10/8	3,147 ▼ -68	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	74.1 ▼ -1.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/8	14,149 ▲ 311	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/11	50.07 ▲ 3.12	▲ 2.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/10	51.35 ▲ 2.54	▲ 4.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	45.69 ▲ 0.28	▼ -5.55
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,504 ▲ 814	▼ -9,491
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	102.66 ▼ -2.22	▲ 18.32
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/11	104.95 ▼ -2.55	▲ 16.00



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/2 ~ 10/8	945 ▼ -21	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	984 ▲ 36	▲ -	
	輸出	"	12 ▼ -52	▼ -	
	在庫	10/8	1,511 ▼ -51	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/4 ~ 10/7	43.3 ▲ 1.7	▼ -6.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/4 ~ 10/7	43.3 ▲ 2.4	▼ -7.4
		(TOCOM/中部)	10/7	43.5 ▲ 2.0	▼ -7.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	122.8 ▲ 0.1	▼ -11.0	

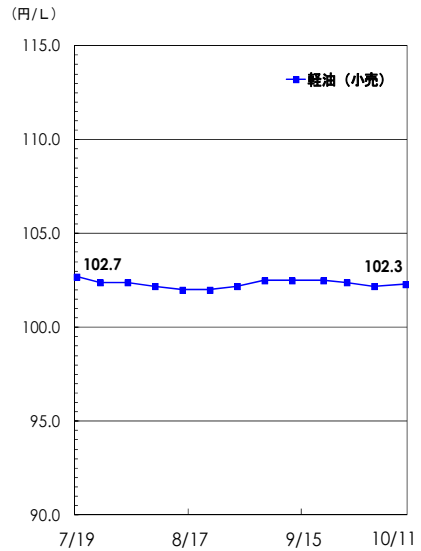
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

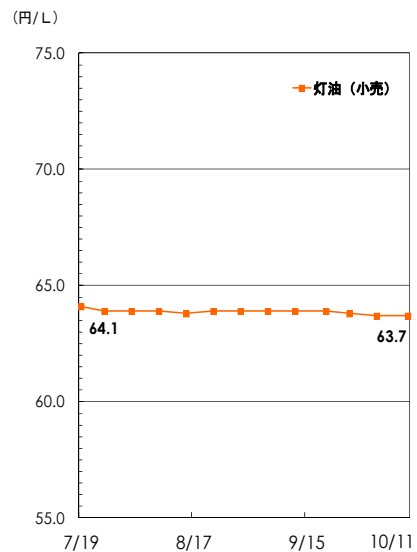
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/2 ~ 10/8	731 ▼ -73	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	679 ▲ 29	▲ -	
	輸出	"	85 ▼ -150	▼ -	
	在庫	10/8	1,474 ▼ -33	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/4 ~ 10/7	39.5 ▲ 1.1	▼ -4.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/4 ~ 10/7	41.0 ▲ 1.5	▼ -6.7
		(TOCOM/中部)	10/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	102.3 ▲ 0.1	▼ -9.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/2 ~ 10/8	222 ▲ 9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	264 ▲ 56	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	10/8	2,818 ▼ -42	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/4 ~ 10/7	38.5 ▲ 1.8	▼ -8.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/4 ~ 10/7	43.1 ▲ 3.2	▼ -8.0
		(TOCOM/中部)	10/7	42.5 ▲ 2.5	▼ -8.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/11	63.7 ➡ 0.0	▼ -15.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

12日のNYMEX市場のWTI原油は、10日からトルコのイスตันบูลで開催中の世界エネルギー会議と並行して行われている主要産油国の閣僚級非公式協議において、減産を目指すOPECに対し、ロシアは増産凍結を主張した模様で、結論は月末に持ち越されたと見られる。また、OPEC月報が9月の加盟国産油量(3,339万BD、前月比22万BD増)の増加を伝えたこと、翌日発表予定の米国原油在庫量が6週間振りに増加の見通しであることも重なって、続落した。ロシアは、プーチン大統領と高官の間で発言に齟齬が見られたが、この日、大統領が改めて増産凍結姿勢を明らかに

した。米国国内在庫は、休日の関係で、米国石油協会(API)が12日夕刻、米国エネルギー情報局(EIA)が13日の発表予定。11月限の終値は前日比0.61ドル安の50.18ドル、12月限の終値は前日比0.60ドル安の1バレル50.64ドルだった。

EIAによると10月10日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.7セント値上がりの1ガロン2.272ドル(62.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比5.6セント値上がりの2.445ドル(67.6円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月2日～8日に休止したトッパー能力は、65.5万バレル/日と前週に比べて5.1万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は314.7万klと、前週に比べ6.8万kl減少。前年に対しては28.2万klの減少。トッパー稼働率は74.1%と前週に対して1.6ポイントの減少、前年に対しては4.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.2%減、ジェット/5.6%減、灯油/4.4%増、軽油/9.1%減、A重油/9.4%増、C重油/18.7%減。今週のC重油の輸入は3.3万kl(前週比2.7万kl減)。軽油の輸出は8.5万kl(前週比15.0万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではA重油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格が値上がりになり、小売価格は4週振りで値上がりとなる中、ガソリンの出荷は98.4万kl(対前週3.8%増)と6週振りで前週比で増加、2週連続で前年比で増加となり、5週連続で100万klを割った。

ジェット12.6万kl(対前週12.6%増)、灯油26.4万kl(対前週27.0%増)、軽油67.9万kl(対前週4.5%増)、A重油19.8

万kl(対前週1.4%減)、C重油24.3万kl(対前週19.1%減)。

(単位:千KL)

	今週 (10/2 ~ 10/8)	前週 (9/25 ~ 10/1)	前週比	
ガソリン	984	948	▲ 36	(4%)
ジェット燃料	126	112	▲ 14	(13%)
灯油	264	208	▲ 56	(27%)
軽油	679	650	▲ 29	(4%)
A重油	198	201	▼ -3	(-1%)
C重油	243	300	▼ -57	(-19%)
合計	2,494	2,419	▲ 75	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月8日時点の在庫はA重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは151.1万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては13.2万kl少ない。

灯油は281.8万kl、前週差4.2万kl減。前年に対しては0.4万kl多い。

軽油は147.4万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては17.3万kl少ない。

A重油は72.4万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては1.8万kl少ない。

C重油は202.6万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては35.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/8)	前週 (10/1)	前週比	
ガソリン	1,511	1,562	▼ -51	(-3%)
ジェット燃料	1,024	1,054	▼ -30	(-3%)
灯油	2,818	2,860	▼ -42	(-1%)
軽油	1,474	1,507	▼ -33	(-2%)
A重油	724	712	▲ 12	(2%)
C重油	2,026	2,032	▼ -6	(-0%)
合計	9,577	9,727	▼ -150	(-1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月4日から10月10日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油39~40円台、灯油38~39円台で堅調となった。海上スポット価格は、ガソリン97~98円台、軽油42~43円台、灯油40~42円台で全般的に値上がりした。先物価格はガソリン96~97円台、軽油41円台、灯油42~43円台で原油価格の値上がりを反映して、特にシーズンを控え低調だった灯油の値上がりが顕著である。元売の卸価格は1.0円から3.5円の値上がりだった。

EMGマーケティングは10月13日、10月15日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリン、灯油は3.0円、軽油2.5円、A重油は2.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調となった。週間のガソリン販売量は、5週連続で100万klを下回った。

10月第3週(10月13日~10月19日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月4日~10月7日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.7円、灯油は1.8円、軽油は1.1円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが2.0円、灯油は4.1円、軽油は1.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.4円、灯油が3.2円、軽油が1.5円の値上がりだった。OPECの減産合意を受けた原油コストの値上がり、製品スポット価格の堅調化の影響で、スポット価格も全般的に値上がりとなった。

10月第3週の大手元売の卸価格は、1.0円から3.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (10/4 ~ 10/7)	前週 (9/27 ~ 10/3)	前週比
スポット価格	レギュラー	43.3	41.6	▲ 1.7
	灯油	38.5	36.7	▲ 1.8
	軽油	39.5	38.4	▲ 1.1
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (10/4 ~ 10/7)	前週 (9/27 ~ 10/3)	前週比
先物価格	レギュラー	43.3	40.9	▲ 2.4
	灯油	43.1	39.9	▲ 3.2
	軽油	41.0	39.5	▲ 1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/4~10/7実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.7	▲ 2.4	▲ 2.0
灯油	▲ 1.8	▲ 3.2	▲ 2.5
軽油	▲ 1.1	▲ 1.5	▲ 1.3
A重油	▲ 1.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月11日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの122.8円、軽油も前週比0.1円値上がりの102.3円、灯油は前週比横ばいの63.7円だった。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は5週振りの値上がり、灯油は3週振りに値下がりが止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは28都道府県、横ばいは6県、値下がり13府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県118.2円(前週比0.6円高)、次が岡山県118.6円(前週比0.6円安)だった。最高値は長崎県の132.4円(同0.7円安)だった。都道府県別で最も

値上がりしたのは、前週比1.3円高の群馬県(120.0円)、最も値下がりしたのは前週比2.1円安の徳島県(120.5円)だった。

原油コストは値上がりし、4週振りにガソリン小売価格は小幅ながら値上がりした。今週の元売会社の卸価格は値上がり、原油価格はさらに値上がりし、為替レートも円安に振れたため、原油コストは大きく値上がりとなったことから、次週の小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (10/11)	前週 (10/3)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	122.8	122.7	▲ 0.1	08/8/4 185.1
	灯油	63.7	63.7	→ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	102.3	102.2	▲ 0.1	08/8/4 167.4

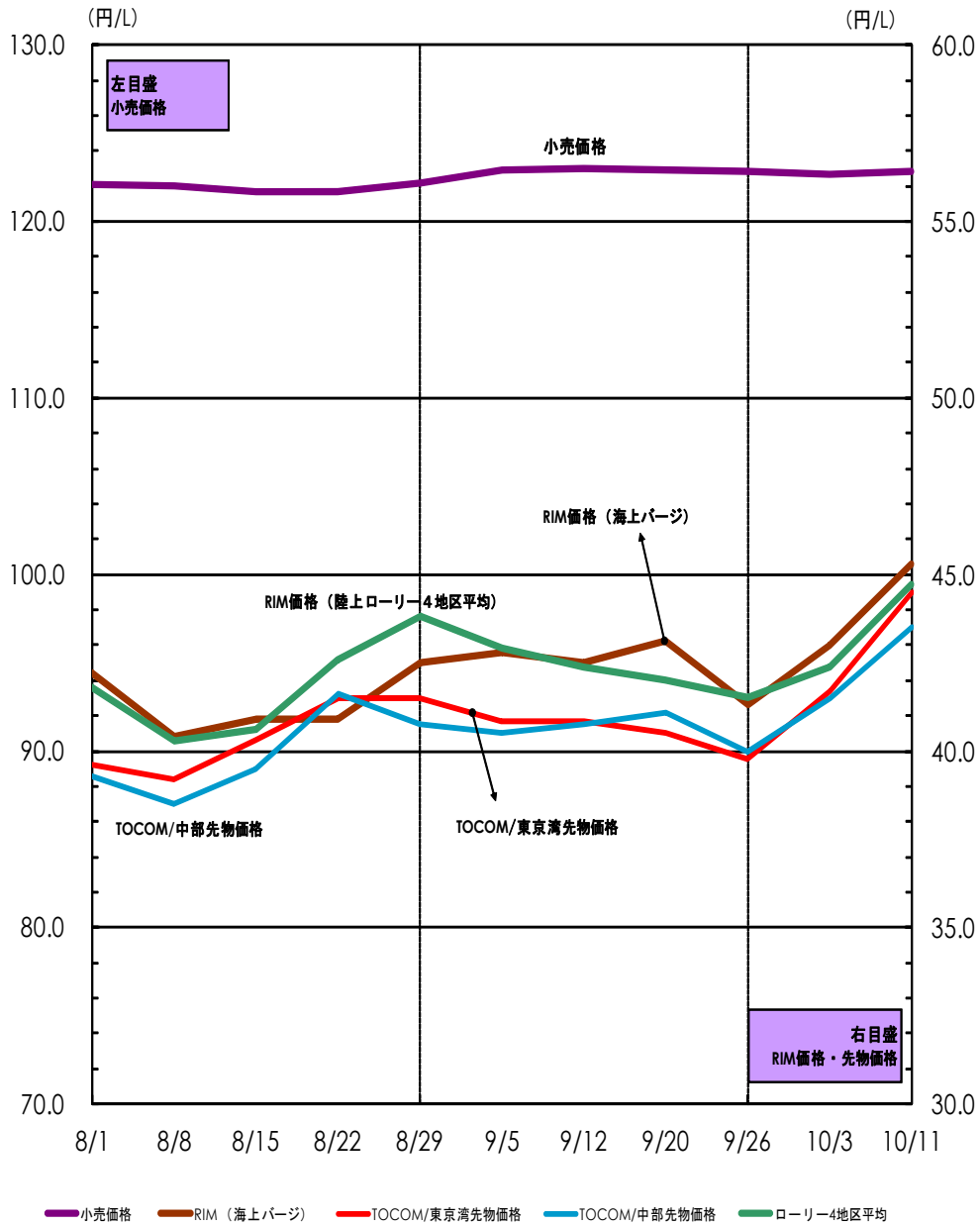
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/8/1 ~ 2016/10/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第28号)の公表は、10/21(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。